

## ▼インフルエンザ予防接種「この冬受けた」32%

季節性インフルエンザが最悪期を迎え、集団感染が相次いでいる。今シーズンの流行が始まったのは昨年十二月初めと例年より早め。前シーズンも開始が早く、患者数のピークは昨年の今ごろだったが、今冬は一月半ばですでにその数を上回っている。

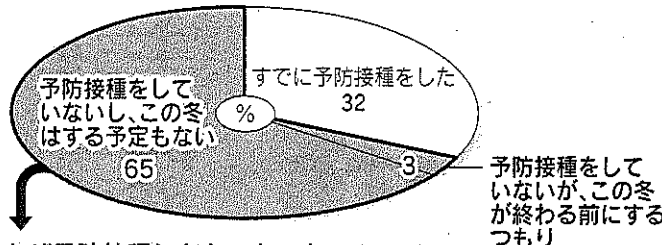
家族と暮らす約千人に聞いたところ、ワクチンの予防接種を受けていた人は三二%。

裏返せば、三人に二人は受けていないわけだ。受けていない理由について、最も多かったのは「おカネ」、次いで「効果がない」。厳しい家計で一人数千円は痛いし、効果がないうと思えばなおさらだろう。

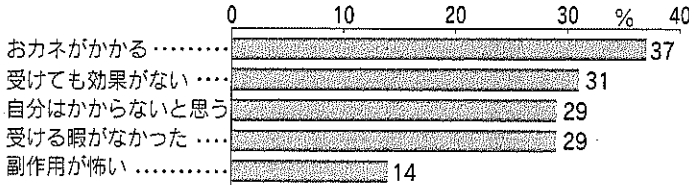
実際、感染を完全に防ぐわけではなく、期待できるのは重症化や死亡のリスクを減らす効果。国立感染症研究所の岡部信彦・感染症情報センター長は「効果の限界を理解したうえで受ける」と話す。人にうつす可能性も減らせるという。六十五歳以上の高齢者や、六十一〜六十四歳で呼吸器障害などに該当する人は死亡のリスクが高いとして、国が接種を奨励している。

世界的大流行が警戒される新型インフルエンザについても聞いた。現段階での備えは「うがい・手洗い・マスクの

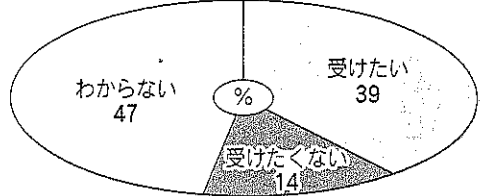
Q.この冬、季節性インフルエンザのワクチンの予防接種をしたか



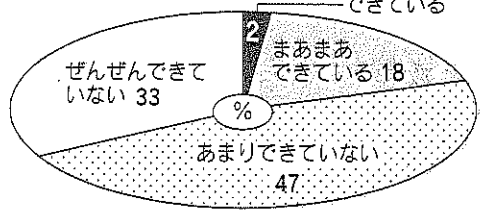
Q.なぜ予防接種しなかったのか(複数回答)



Q.新型インフルエンザの大流行に備えたワクチン(開発中)の事前接種を受けたいか



Q.新型インフルエンザが国内で流行した場合、どう対応すればいいかの情報が入手できているか



## 「新型」なお低い認識

「励行」(五四%)や「マスクの備蓄」(三二%)程度。国の呼びかけにもかかわらず「何も準備していない」が三七%に達した。流行時の行動について情報を持っていない人は「あまり」「ぜんぜん」合わせて八〇%。症状が出たら病院などの「発熱外来」を受診するといった仕組みを知っているのは一八%だけだ。

新型の発生に備えて開発が進むブレパンデミック(流行前)ワクチンの事前接種を受けた人は三九%おり、今冬に接種を受けた比率を上回った。それだけ不安が高いといえる。ただ、新型インフルエンザの種類によっては効かないことを六六%が知らず、ワクチンへの期待先行か。

厚生労働省の研究班が一月発表したこのワクチンの安全性の中間解析結果によると、接種後、三割近くにだるさなどの全身症状があった。国は不安の解消に向けた対策を進める必要があるとうたう。

(編集委員 賀川雅人)

調査の方法 調査会社マイボイスコムを通じ一月二十三日二十五日にインターネットで実施。家族と同居している全国の男女千八百人が回答。